雜報

●大正十年度の星界

十年度に入つて先づ面白い事件は一月九日頃に起る火星と金星と天王星との接近である。双眼鏡を持つてゐる人は必ず見逃がしてはならぬ。此の後火星は漸々太陽に追ひつかれて行き、七月の末に合となつて、それからは曉天の星となる――一體に此年は火星觀望に不便である。

之れに反して金星のためには先づ當り年と言つてよかろう。年の初めは光輝頗る強大、且、離隔も大きい。之れが四月の二十日には太陽と合をなし、其れから急轉して、曉の明星となる。曉天でも夏から秋の候、永く此の金星が舞臺を誇るであろう。

水星の出沒は相變らず忙がしい。最大離隔を表示すれば

宵の最大離隔	曉の最大離隔
二月十四日	三月二十八日
六月十日	七月二十八日
十月七日	十一月十六日

木星と土星とは一年中好い道連れで、始終離れずに天を一週する。三月中旬に夜半南中九月には太陽と合となる。

此の年は天王星に緣が薄い。年末になれば便利になるが其の他は一體に觀望に不便。之れに比べると海王星の方は大體二三時間木星に先んじてゐるから都合は好い。

一般の人々が此等太陽系統の星を見るのは三月が最適であろう。此の頃には夕空の西に火星と金星があり、東には木星と土星と海王星とが昇つて來る。そこへ月でも出る頃は益々好都合。

新星などがまた幾つか發見されるだろう。どうやら近年は彗星よりも新星の發見の方が多くなつて來たやうだ。之れには種々の原因もあろうけれど、多分は天の都合でなくて、人の都合であろう。

●來年の彗星

大正十年度に近日點（太陽に最も近い點）を通過する週期彗星はエンケ彗星ウインネケ彗星、及びニウツミン（一九一六年）彗星である。其の中でエンケ彗星は五月に太陽と合の位置に來り、それから漸次太陽より先んじ六月以後西天に見ゐるやうになる。近日點通過は七月上旬。ウインネケ彗星は七八月頃地球に最も近づくが一體に觀望し易い位置にあるからもつと早く發見されるかも知れない。之れも長い間西天を賑はすだろう。ニウツミン彗星は九月に近日點通過であるが、始終太陽の向ふ側にあるから甚だ觀望に不便である。多分此星の發見は不可能であろう。

此等の彗星が搜索する人のため、彗星位置の毎日表は追て掲載する。

鰯れて居ました處去十一月九日山本先生より二十一、二、三日の三日間京都大學が休みであるから、岡山で天文學の宣傳が試みたいといふ、御書面に接しましたので微力ながらも小生の全力をこれに集注しまして岡山市教育會、岡山博物學會及び岡山物理學會の御主催で講演會開催の運びになりまして開會毎に多數の聽衆を得其の上岡山市内吉備商業學校では八百の生徒の爲めに講話會開かれ又岡山中學校では岡山縣下數物理學教師諸君の御會合の席上に於ても宣傳の機會を御與へ下さつたことは多くの先輩其の他關係の方々に深く感謝致します、立所に數十名の入會者を得て岡山支部の設置せらるゝ樣になつて不肖幹事を囑託せられしも淺學菲才とても會員諸君に御滿足を得せしむる事は六ヶ敷がらんも諸君の御鞭達により、其職責を盡すことが出來る樣御依賴し、社會奉仕の第一歩として出發致しますから將來斯道の爲め天文同好會の愈々發展せん事を希望して止まないのであります。

（大正九年十一月二十五日）

●訂正　前號第二十九頁雜報欄の學術研究會の天文部記事中、大谷亮吉氏とあるは石原純氏の誤り。又前々號第十一頁雜報欄のロッキヤー氏逝くの記事中、ピケリング氏の死は大正八年二月につき訂正。